



まつなみリサーチパークの職員が認定遺伝カウンセラー®の資格を取得しました。



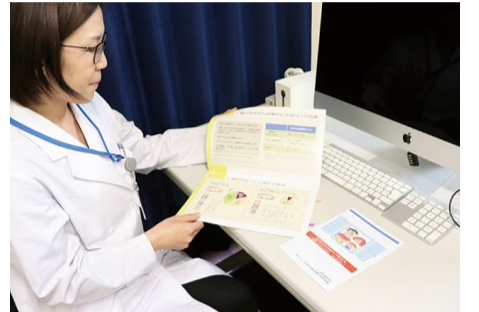
まつなみリサーチパーク 主任
佐々木 典子 (ささき のりこ)

当院の医学研究所であるまつなみリサーチパークに所属する佐々木 典子主任が、今年10月に認定遺伝カウンセラー®の資格を取得しました。認定遺伝カウンセラー®は日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会が共同認定している資格で、遺伝や遺伝性疾患に関する悩み、不安を抱えている方やそのご家族に対して、主治医、臨床遺伝専門医と連携しながら、疾患や検査、社会的支援などの情報を分かりやすくお伝えし、心理的、社会的サポートをする専門職です。日本の資格取得者は316名と数少なく(2022年4月時点)、佐々木主任は当院で唯一の認定遺伝カウンセラー®となります。

遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)に関わる遺伝カウンセリング

がんの主な原因は生活習慣による環境要因ですが、一部のがんでは生まれ持った遺伝子の変化による遺伝要因があります。遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)は遺伝要因と強く関わっている、遺伝性乳がんの代表的な1つです。HBOCと診断された方は乳がんだけではなく、卵巣がんも発症しやすい傾向があります。

当院では主にHBOCのご心配がある方を対象に、主治医と連携しながら認定遺伝カウンセラー®による遺伝カウンセリングを行っております。患者さんが納得できる治療方法や予防方法について一緒に考え、ご自身の意思で選択ができるようお手伝いします。がんに関する遺伝についてお悩みの方は、主治医にご相談ください。



佐々木典子主任からメッセージ

▶認定遺伝カウンセラー®の資格を取得しようとしたきっかけを教えてください。

3年ほど前にゲノム医療の会議に出席した際に、岐阜県は認定遺伝カウンセラー®の数が少ないという話を聞きました。その時に、私がこれまで行ってきた遺伝子やRNAの研究の経験を生かして、遺伝カウンセラーとして地域の患者さんのお役に立つことができないだろうか、と考えたことがきっかけです。当院としてもがんゲノム医療連携病院を目指しており遺伝カウンセラーは必要だったため、病院の後押しもいただき、資格取得を目指しました。

▶遺伝に関する悩み、不安を抱える患者さん・ご家族の方へメッセージをお願いします。

遺伝性疾患と言われると、情報が少なく、言葉も難しく、気軽に人に言えず、孤独に感じられるかもしれません。遺伝や遺伝子が関係する“体質”に関しては遺伝カウンセリングという相談先がありますので、まずはどなたでもお悩みをお聞かせください。なぜそれが自分や家族に起こったのかを正しく理解し、その悩みに対してどのような解決策があるのかを一緒に考え、その人らしい選択ができるよう支援いたします。遺伝カウンセリングを受けるかどうか迷われている場合にも、お気軽にご相談ください。

次のページは、「過活動膀胱」について

Matsunami Information

NEWS

当院をご利用される皆さまへ、新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

面会禁止、
夜間施設について



発熱症状で
受診される方へ

来院前
にご確認ください



引き続き、多大なご迷惑とご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。各お知らせの詳細は、左のQRコードよりご確認ください。

松波総合病院柔道練習会のご案内

当院の柔道部発足に伴い、柔道の練習会を開催しています。柔道経験者だけでなく、未経験の方でも一からご指導します。女性の方には、護身術をお教えいたします。

右記の日程・場所で行っておりますので、ご家族・ご友人などお誘い合わせのうえ、参加される方は、右記の連絡先に事前申し込みをお願いします。

日時	毎週月曜日・木曜日(祝日は休止です) 17時30分～19時00分
場所	笠松中央公民館 1階 多目的室 柔道場
連絡先	058-388-0111(内線 51668) 松波総合病院 柔道部監督 松井

多数傷病者発生訓練の実施・中部管区広域緊急援助隊合同訓練に参加しました。

10月28日(金)に当院にて多数傷病者発生訓練の実施、11月8日(火)に中部管区広域緊急援助隊合同訓練に当院のDMATが参加しました。

訓練では大規模災害を想定し、適切な処置、搬送が行えるよう、傷病者の治療優先順位を決めるトリアージを行いました。今後も災害時のスムーズな対応ができるよう準備、対策していきます。



▶多数傷病者発生訓練



▶中部管区広域緊急援助隊合同訓練

第22回日本クリニカルパス学会学術集会在開催しました。

11月11日(金)、12日(土)に「第22回日本クリニカルパス学会学術集会」を当院主催で開催しました。クリニカルパスとは入院から退院までの診療計画書を指し、複雑な医療の過程を「見える化」「標準化」するのが学会の目的とされています。岐阜県内での開催は2009年以来で、当日は全国の医療関係者約1300人が来場しました。会場では様々な講演、ブースを出展、VR体験コーナーなども設置しました。



第6回羽島先端医学を学ぶ会

医療職の方ならどなたでも参加できます。右のQRコードより、申込書をダウンロードのうえ、お申し込みください。

テーマ 泌尿器科進歩と今後の展望

講師 岐阜大学大学院医学系研究科泌尿器科学分野
教授 古家 琢也 先生

日時 2022年12月22日(木) 18時00分～19時00分
場所 松波総合病院 東エクステンション棟 2階



駐車場のご案内

立体駐車場への入庫は、左折のみとさせていただきます。右折入庫は渋滞の原因となりますので、右折入庫をなさらないよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



ARアプリ COCOAR導入しました!!

アプリを起動し、「月刊まつなみ」の表紙でお試しください!!



ダウンロード・詳しい使い方は
こちらから!(リンク先は病院HPです)



社会医療法人蘇西厚生会
松波総合病院

〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1

TEL 058-388-0111(代)

FAX 058-388-4711

<https://www.matsunami-hsp.or.jp/>



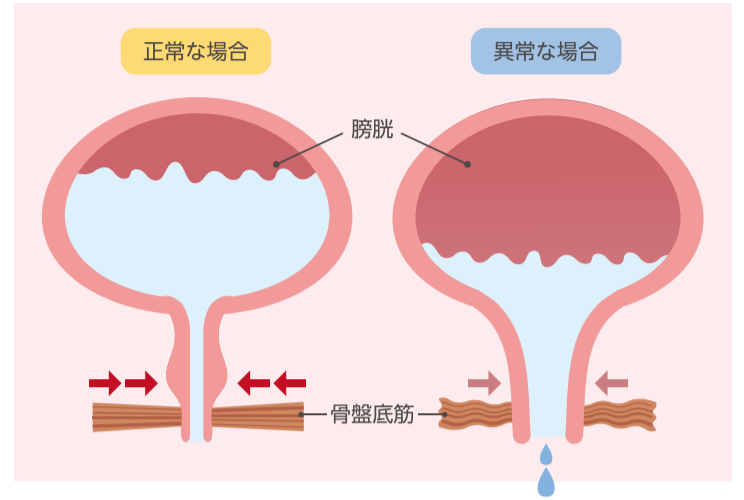
冬場に発生しやすく、40歳以上の約8人に1人が発症する排尿障害「過活動膀胱」。 当院の泌尿器科で行う治療方法をご紹介します。

過活動膀胱とは

「過活動膀胱」とは、膀胱にうまく尿が溜められなくなり、トイレに頻繁に行きたくなる病気です。

通常、左右の腎臓で作られた尿は一度膀胱に溜められます。膀胱に尿が溜まると、膀胱から脳への神経伝達があり、脳が排尿の命令を神経刺激として出します。この刺激を受けると、骨盤底筋と括約筋が緩み、膀胱の筋肉が収縮して尿を膀胱から押し出します。

しかし、さまざまな要因により、尿量があまり溜まっていないにも関わらず、無意識に尿を排泄しようとする膀胱の筋肉の収縮が起こることがあります。これを「過活動膀胱」といいます。過活動膀胱は、高齢者であるほど頻度が高く、高齢化社会の日本では現在1000万人以上の患者数があると推測されており、誰にでも起こりうる身近な病気のひとつです。



主な症状

【尿意切迫感】

急に尿意を催し、我慢ができなくなる状態です。

【頻尿(夜間頻尿)】

何度もトイレに行きたくなり、寝ている時も尿意で目覚めてしまう状態です。

トイレへ行く回数は、日中で5～7回、寝ている間は0回が正常と言われています。日中8回以上、夜間1回以上トイレに行く場合、頻尿(夜間頻尿)であると考えられます。

【切迫性尿失禁】

突然尿意を催し、トイレに行くまで我慢できずに漏れてしまうことがある状態です。

主な原因

脳と膀胱(尿道)の神経のトラブルによって引き起こされる「神経因性」のものと、それ以外の原因で起こる「非神経因性」のものがあります。

【神経因性過活動膀胱】

脳と尿道の筋肉を結ぶ神経の回路の障害によって発生します。

- 脳卒中や脳梗塞などの脳血管障害、パーキンソン病などの脳の障害
- 脊髄損傷などの脊髄の障害の後遺症 など

【非神経因性過活動膀胱】

女性の場合は加齢や出産によって、膀胱・子宮・尿道などを支える骨盤底筋が弱くなることや傷付くことが原因で過活動膀胱を発症することがあります。

男性の場合は前立腺が肥大して尿が出にくい状態が続くと、排尿のたびに膀胱に負担がかかることとなります。これが繰り返されると過活動膀胱を発症することがあります。

過活動膀胱の治療方法

当院の泌尿器科外来では、過活動膀胱の治療は生活指導、行動療法、飲み薬による治療を行います。これらの治療で効果が得られない場合や副作用を理由に治療の継続が困難な場合は、「ボツリヌス治療」を行っております。

治療剤による薬物療法(経口剤、貼付剤)

口から飲む経口剤は、胃腸・肝臓を経由して薬の成分が血中に吸収されて効果を発揮します。膀胱の収縮を抑え、膀胱の拡張を促進させる効果によって、尿意切迫感を改善します。最近では、副作用の少ない経口剤も増えています。

一方、皮膚に貼る貼付剤は、皮膚を通じて薬の成分が吸収されて効果を発揮します。内服ができない患者さんでも使用できます。

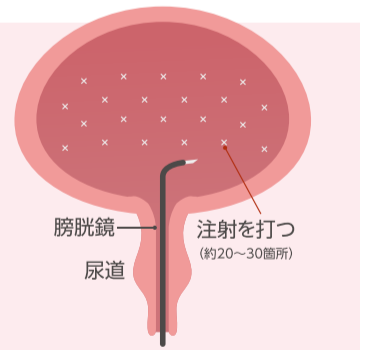
行動療法

膀胱訓練は、意識的に排尿間隔を延長することで、膀胱の容量を増加させるトレーニングです。5分など短時間我慢するところから徐々に分数を延長し、最終的には2～3時間我慢できるように訓練を行います。骨盤底筋体操は、骨盤底筋群という筋肉を強化して尿もれの軽減を目指すトレーニングです。骨盤底筋群は、膀胱、子宮、直腸などの臓器を支えている筋肉で、尿道を閉める役割があります。

ボツリヌス療法(ボツリヌス毒素(ボトックス®)膀胱壁内注入療法)

ボツリヌス療法に使用されるA型ボツリヌストキシンは筋肉の収縮を弱める作用があります。この薬剤を膀胱の筋肉に直接注射し、膀胱の筋肉の異常収縮を抑えることで症状を改善させます。(ボツリヌス菌を注射する訳ではありませんのでボツリヌス菌に感染する心配はありません。)この治療は、米国や欧州など世界で広く行われており、日本でも国内の治験を経て2020年4月に保険診療が適応となりました。

効果は通常治療後2～3日であらわれ、4～8ヵ月にわたって持続します(効果の程度や持続期間には個人差があります)。効果がなくなってきたら、あらためて治療が必要となる対症療法です。再投与の時期については医師にご相談ください。



過活動膀胱の治療に関するご相談は、泌尿器科へ受診・お問合せください。

当院の泌尿器科には、女性の近藤啓美医師が在籍しております。初診では丁寧に問診を行い、患者さん一人ひとりにあった治療方法を提供しております。

特に、排尿に関するお悩みを相談できないまま受診を控えていた女性の患者さんは、ぜひ泌尿器科までお気軽にご相談ください。

泌尿器科
診療科ページ



泌尿器科
診療担当表



担当医師プロフィール



泌尿器科 医員
近藤 啓美
(こんどう ひるみ)

専門分野
▶ 排尿障害
▶ 女性泌尿器科

資格
• 日本泌尿器科学会:泌尿器科専門医
• 医学博士

所属学会
• 日本泌尿器科学会
• 日本泌尿器内視鏡学会
• 日本女性骨盤底医学会
• 日本老年泌尿器学会
• 日本排尿機能学会